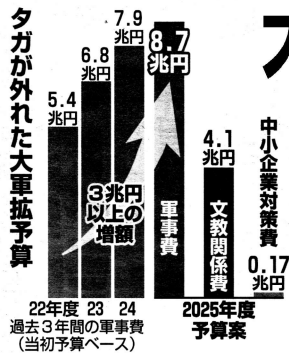


第4回定例
議会報告

高村功議員

大軍拡、大企業優遇から転換を
「二つのゆがみ」に切り込むのは共産党だけ
暮らしを守る確かな道質問する田村智子委員長
=1月28日、衆院本会議

田村委員長が代表質問

物価の値上がりで毎日の買い物に行くのが怖い。通常国会(1月24日開会)で暮らしの困難を打開し応援する予算にするかどうか問われています。

2025年度予算案で軍事費は文教関係の2倍、中小企業対策費の50倍にもなる8.7兆円。軍事費は毎年1兆円規模で増え続ける異常ぶりです。また、個別の半導体企業に24年度補正予算とあわせ1.3兆円を支援します。この大盤振る舞いを正すことなしに、大幅賃上げや消費税減税、社会保障の拡充、教育費無償化などの財源を生み出すことはできません。衆院本会議の代表質問で、大軍拡の背景にあるアメリカいなり政治、財界・大企業の利益優先の政治という「二つのゆがみ」に切り込んだのは、日本共産党だけです。

市議会

定数を18人から16人へ削減

太陽光発電施設条例を新たに制定

第4回定例議会では最終日の12月20日、議会議員定数検討特別委員会の報告書が委員長の武石寿長議員から報告されました。同委

立憲民主党は、軍事費の「増額の方向性は理解する」と表明。日本維新の会は「防衛力・抑止力の強化を不断に行うべきだ」と、軍拡を求めました。

国民民主党は「103万円の壁(所得税が発生する年収)引き上げを求めましたが、財源は一時的な増収増税のみです」。

日本共産党の田村智子委員長は代表質問(1月28日)で5つの改革を提案しました。

大軍拡の中止、大企業と富裕層の応分の負担、大企業奉仕の予算の見直しによって財源を生み出し、暮らしに充てる「この道こそ、困っている人の暮らしを守り、経済を立て直し、平和をつくることのできる確かな道です」。

5つの改革を提案

暮らしの困難打開へ、財源示し代表質問で提案しました

- ① 大幅賃上げと労働時間の短縮を一体に進める — 大企業の史上最高の利益が賃上げにも取引企業の単価引き上げにも回らず、内部留保が膨張を続けている。たまりすぎた内部留保を賃上げに回す仕組みを政治の責任でつくる。
- ② 不公平な税制をただす — 生活のための費用には課税しない生計費非課税の原則に立ち、消費税の減税、インボイスを廃止する。
- ③ 全ての世代を支える社会保障 — 物価が上がれば増える年金、医療・介護の基盤崩壊を止め、ケア労働者の処遇改善を進める。
- ④ 学費値上げストップ・教育費負担ゼロ — 来年度の大学授業料値上げを止めるために1000億円の緊急助成、教育予算の抜本的な増額。
- ⑤ 食料の安定供給、持続可能な農業 — まず食料自給率50%を目標とし、家族的経営を含めすべての従事者の所得を増やす政策に転換する。

与党多数の「壁」
衆院につづいて
参院でも崩そう

田村委員長の代表質問の動画はこちらからご覧できます。



2025年
参院選
比例代表
予定候補

希望の扉ひらくチーム
そろって国会へ

法案提出権、
本会議質問のために

比例5議席が絶対必要

日本共産党茨城県委員会、参院選・茨城選挙区(定数2)に、高橋誠一郎(30歳・新人・党県政策委員長、元しんぶん赤旗記者)を擁立して、勝利をめざします。

茨城選挙区選予定候補

高橋 誠一郎(新)

LINE 公式



自民党政治と正面から対決し、「アメリカいなり」「財界・大企業の利益最優先」という日本の政治の二つのゆがみを「もたら変える」日本共産党が躍進することこそ、自民党政治に代わる新しい政治を実現する確かな力となります。

第1回定例議会は

2月26日(水)に開会します
一般質問は、3月6日(木)と7日(金)が予定。ライブ配信されます。

日本共産党
ホームページ



スマホ対応

政治革新の道しるべ、真実つたえ希望はこぼ

しんぶん赤旗

日刊 ●月3,497円
日曜版 ●月 990円

新ひたちおおみや

2025年2月 発行／日本共産党常陸大宮市委員会
高村功 電話 0295-53-7640 Fax 51-3173

ノーベル平和賞 日本被団協受賞
これが国際社会の声

「核抑止から脱却 今こそ」

1945年8月、広島・長崎に原爆が投下され、まもなく80年となるタイミングで、核兵器廃絶に向けて地道な取り組みが続けてきた日本被団協がノーベル平和賞を受賞しました。長年、核兵器廃絶へ国内外で地道な努力を続けてきた被団協や無数の被爆者、そして街頭で署名に取り組んできたすべての市民に対する評価といえます。

本来なら、唯一の戦争被爆国である日本政府がそうしたことを国際社会に訴え、「核兵器のない世界」を主導する責任があります。ところが、政府は米国の「核抑止」に固執する立場から核禁条約への参加を拒否。同条約締結国会議のオブザーバー参加さえ否定しています。

政府はこれ以上、国際社会に恥ずべき姿をさらすことをやめ、ただちに核禁条約への参加を決定すべきです。核兵器の惨禍を訴える先頭に立ち、「核抑止」から抜け出す道を選ぶべきです。

常陸大宮駅周辺整備事業 「事業費増額の原因」を質問

一般質問

市議会のホームページで一般質問の録画が見られます



高村功議員
12月11日に質問

日本共産党の高村功議員は、常陸大宮駅周辺整備事業や抽ヶ台地内市道214-17号線、おおみや広域聖苑待合室などについて一般質問を行いました。

高村議員 事業費は、当初の51億円から76億円と25億円に増加した。これは、昨年4月の市長選でも話題になり、多くの市民から驚きの声が上がったが。

建設部長 令和6年3月21日の議員協議会で、説明させていただきましたが、現時点で、概算事業費に変わりはありません。なお物価高騰、アンケートやワークショップ等による要望、道路線形の見直し等

12月3日(火)に開会した第4回定例会は、20日(金)に閉会しました。本会議では、予算決算常任委員会に付託された令和6年度常陸大宮市一般会計補正予算、同国民健康保険特別会計、同介護保険特別会計の各補正予算、同温泉事業特別会計など4議案と、各常任委員会に付託された条例制定・改正6件が、委員会審査報告後に可決・採択されました。

また、議会議員定数検討特別委員会(委員長 武石寿長議員)の結果報告書が、武石議員から報告されました。報告書は、「現行の18人から2人削減し、16人とする議員定数案が、一部の委員を除き、適正な議員定数であることを結論づけた」とし

により、当初約51億円の事業費が、概算額ですが76億円になる見込みです。

高村議員 原因はどこにあるのか。また、今後市民への説明は。

建設部長 事業全体に影響していますが、人件費、建設資材費や燃料等の高騰が挙げられます。また、駅西交流拠点においては、良質な木材の活用計画や、耐用年数に優れた幕屋根へ変更、市民団体との意見交換等により、建築面積の増加、それに伴う屋根面積が増加しています。さらには、道路線形の見直し等による調査測量費の増加が主な要因です。

報告できる段階になりましたら、改めて議員の皆様へ報告させていただきますとともに、市民の皆様にもホームページでお知らせしたいと考えています。

高村議員 増加分の補填をどうするのか、また今後もさらに増加する可能性があるのか。

建設部長 財源ですが、都市構造再編集中支援事業の国庫補助金および合併特例事業債を充当する考

ています。陳情では、「道路修繕に関する陳情書」(陳情者・渡邊大作氏)が全会一致で採択されました。

日本共産党の高村功議員は、任期満了に伴う教育委員の再任に不同意とし、茨城租税債権管理機構の規約変更について反対し、討論を行いました。また議員定数についても現状維持を主張しました。



えです。また、現在も物価の上昇は続いており、さらには計画の見直し等をすることも考えられ、事業費

議会傍聴記



市政くらし対策部長
小室貞夫

12月議会では、議員定数について検討していた、特別委員会の結果が報告された。現在の定数18から2減の16とする報告だった。特別委員会の議論の中身の詳細は把握していないが、多数の意見は削減であったことは明らかだ。当初の特別委員会の設置の目的は、現在の定数が適正なのかどうかであったはずが、蓋を開ければ削減に向けての議論になってしまふ。

何を根拠に常陸大宮市議会の議員の数が多くと判断したのかもわからない。近隣の自治体の状況も参考にしたと思うが、隣の常陸太田市は17、那珂市は18と余り変わりはない。大子町は、議員定数を削減してその代わり議員の報酬を引き上げ住民の怒りを買ひ、共産党の議員が2位で当選した。

合併当時は、確かに議員の数は多かったが、その後議員定数の見直しにより少しずつ減ってきたが、16人の議員ではこの広い地域の住民の意見や要望を議会に届けることができるのか疑問が残る。一生懸命活動する議員の方もいるでしょうが、削減ありきの議論ではなく、住民の声を聞くことも大事なのではないかと思います。

が変更になることも考えられます。

高村議員 常陸大宮駅周辺整備事業は、もともと意見の分かれる事業だった。周辺地域の住民には何の恩恵がないという意見が多くを占めており、また大宮地域でも、毎日使っている生活道路を整備してほしいという声も多い。そして今回の事業費の増加は、これらの意見と併せた時、納得できるものなのか、疑問だ。

抽ヶ台地内の市道

高村議員 市道214-17号線は、狭いので、側溝には蓋が敷設されておらず、子どもたちの安全が危惧されるという声があるが、将来的に改良の余地があるかどうか。

建設部長 市が管理している市道は路線数も多く、その多くは合併前に整備されていますので、周辺環境の変化など、社会的な要因による道路改良の余地は、本路線に限らずあると考えています。

高村議員 今後の対応は。

建設部長 市道整備に当たっては、関係地域の方々、用地のご協力をいただく地権者のご理解が不可欠であることから、合意が整うことが最重要です。なお現路線については、引き続き市道が良好な状態を維持できるよう、必要な補修、管理に努めていきたいと考えています。

おおみや広域聖苑 待合室

高村議員 おおみや広域聖苑の待合室だが、座敷に座るよりも、身体に負担のかからないテーブル方式の待合室が欲しいという高齢者の声を聞くが、改善の方向性は。

市民生活部長 高齢の利用者から、座る際や立ち上がりの際の膝への負担が大きいので、テーブル・椅子に変更できないかとの要望が多いことから、変更を検討しているところです。



その他の一般質問項目

■加齢性難聴者への補聴器購入助成について(1)加齢性難聴者の社会生活への影響(2)加齢性難聴者の実態把握①介護認定での聴力項目の経緯と結果(3)加齢性難聴と認知症の因果関係(4)補聴器購入に対する公的助成制度

■市内の防犯対策について(1)市内の強盗事件後の課題(2)高齢者世帯への対応(3)今後の防犯対策①緊急通報システム②防犯パトロールと防犯灯③防犯カメラ④防犯対策への補助

※加齢性難聴者への補聴器購入助成について、市内の防犯対策については、議会広報81号をご覧ください。